国語科　言語文化　学習指導案

実施日時　　令和８年 12 月１日（火）５校時
実施学級　　加世田高等学校１年３組 38 名
授 業 者　　平 山　香 里

１　単元名　なぜ歌を詠むのか ～和歌の表現と機能の探究～

２　生徒観及び指導観

本校は、学校行事や部活動、生徒会活動、地域活動、ボランティア活動など何事にも積極的に全力で取り組む校風を有しており、学習においても、多くの生徒が提示された課題に対して真面目に取り組む素直な学習態度である。本学級も、生活態度、授業態度共に良好な学級であるが、「言語文化」の授業は、１年生前半期で古典学習の基礎知識を身に付けることの必要性が高いために、教師主導による授業展開が多くなってしまう。それが原因となって、生徒はやや受動的な学習姿勢に留まりがちであった。しかしながら、入学後数ヶ月経った現在では基礎知識を身に付け、古文読解にも挑戦することができるようになった。この時機を逃さず、古典を学ぶ意義や言語文化の豊かさを実感し、生徒個々が主体的に学習に取り組むことができるような姿勢を養っていきたい。

この単元では、『伊勢物語』の第９段「東下り」を読んで生徒個人やグループ別に「問いを立てる→仮説→考察・検証→結論」の授業実践を行いたい。現代語訳をする、教師の解説を聞く、与えられた物を暗記する等の受動的な学習ではなく、「なぜ男はここで和歌を詠んだのか」「なぜ同行者は涙を流したのか」といった本文の描写や構造に対する疑問や気づきを意識し、自らの探究的な問いとして深め、言葉の表現効果を吟味し考察する授業になるように工夫したい。延いては生徒個々があらゆる場で主体的に問いを立てることができるような力を養成したいと考える。

３　単元の目標

(1)古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。〔知識および技能〕(2)ウ

(2)「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ(1)オ

(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

４　本単元における言語活動

「Ｂ　読むこと」（2）オ「古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動」を基に、他者と意見交換をしながら言語に関する理解を深める活動を位置づけた。

５　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。((2)ウ)	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。（Ｂ(1)オ）	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、和歌の表現手段や機能について自ら立てた問いの解決に向け、他者と協働しながら粘り強く考察し、自らの考えを調整してさらに深めようとしている。

6　単元の指導と評価の計画

次	時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価規準等
1	1 ・ 2 ・ 3	○「伊勢物語」と歌物語という文学ジャンルについて概略を理解する。 ○第六段「芥川」を理解する。 ・本文を音読し、古語や文法事項については辞書等を用いて調べ、大意をつかむ。 ・登場人物について確認する。 ・文法事項や和歌について確認し、和歌を鑑賞する。「白玉か…」における男の心情を考える。	○	○	○	〔知識・技能〕 〔思考・判断・表現〕 〔主体的に学習に取り組む態度〕 「記述の確認」「記述の分析」
2	4 ・ 5 ・ 6	○第九段「東下り」の全文を通読し、本文の構成を理解する。 ・第一段落から、男が「東下り」をするに至った事情を読み取る。 ・「唐衣…」における和歌の修辞及び詠み込まれた心情を理解する。 ・第二段落から第五段落を読み、男の旅について大意をつかむ。 ・「駿河なる…」「時知らぬ…」「名にし負はば」の各和歌に詠み込まれた心情を理解し、和歌にはどのような機能があるか、個人及びグループ別で考える。		○	○	〔思考・判断・表現〕 〔主体的に学習に取り組む態度〕 「行動の観察」「記述の確認」
	7 本時	○教師からの問いについて考察する。 問い「なぜ歌を詠むのか」（グループ別） ・和歌四首の共感的、記録的側面について振り返った上で、和歌を「比較」（韻文⇔散文、平安⇔現代）して和歌という表現手段と機能について考察、検証する。 ・「共感的、記録的側面」だけではない平安時代における和歌という表現手段と機能を理解する。		●	●	〔思考・判断・表現〕 〔主体的に学習に取り組む態度〕 「行動の観察」「記述の確認」
3	8	○本単元の振り返り（「伊勢物語」と和歌の学習及び「問いを立てる」授業）をする。 ・Google フォームによる自己評価を行う。（提出） ・「伊勢物語」の他作品や「大和物語」を紹介する。	○	○	○	〔知識・技能〕 〔思考・判断・表現〕 〔主体的に学習に取り組む態度〕 「記述の確認」「記述の分析」

7　本時の指導

(1) 本時の目標

① 平安時代における和歌という表現手段と機能について自分の考えを深める。

②「問い→仮説→考察・検証→結論」の手順に沿い、粘り強く和歌の機能について考察をしようとする。

(2) 指導と評価の実際

過程	学習内容	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
導入 (10分)	1 前時までの学習内容を振り返る。 2 本時の活動を把握する。	1 パワーポイント使用。 2 課題を明確に指示する。	
展開 (35分)	3 〔考察方法を学ぶ〕 ○教師からの問いを考察する。 問い「なぜ、和歌は平安時代にこれほど詠まれたのか」 ○２種類の方法で考察する。 考察方法Ⅰ ・本文から和歌を取り除き、地の文（散文）だけで現代語の文章に作りかえる。元の文章と読み比べ、失われた要素を分析する。 考察方法Ⅱ ・和歌と現代のＳＮＳを比較する。Instagramに写真と短文を投稿する現代人の行動との共通点と相違点をワークシートで比較し分析する。 ○考察したことを発表する。	3 グループ別の活動とする。 考察Ⅰ　ワークシート使用 考察Ⅱ　ワークシート使用 （生成ＡＩ）	〔思考・判断・表現〕 ワークシートで思考を整理してまとめ、自分の考えを広げたり深めたりしているか。 （行動の観察） （記述の確認） 〔主体的に学習に取り組む態度〕 言語活動を通して、積極的に自分の考えを深めようとしているか。 （行動の観察） （記述の確認）
まとめ （5分）	○本時を振り返る。		

8　本時の評価規準

① 散文の書き換えやＳＮＳの比較を通して、平安時代における和歌の表現手段と機能について自分の考えを深めている。

② 考察の手順に沿ってワークシートに思考を整理し、粘り強く自分の考えを深めようとしている。

９ 「思考・判断・表現」、「学びに向かう力、人間性等」の観点が「努力を要する状況（Ｃ）」と判断される生徒への手立て

・和歌を省いた散文を読ませた上で「この文章だけで全員が涙を流す状況が自然につながるか」等の問いかけを行い、感情の共有（共感）における和歌の役割に気付かせる。

・ワークシートの比較の視点についてより具体的に助言するなど、ＳＮＳとの共通点や相違点について丁寧に整理して考えさせる。〔思考・判断・表現〕

・考察の途中で止まっている生徒には、これまで記述（入力）したものやノートを用いて和歌四首の学習で気付いたことを振り返らせ、活動を促す。グループ活動では「自分の考えと他者との考えで異なった点」を書き出すように促し、他者の視点を取り入れて自らの考えを調整する経験を積ませる。〔学びに向かう力、人間性等〕